

Keyword: 「人種差別」「歴史」「抗議デモ」「ヘイトスピーチ」「アメリカ」

## 第一論 研究の動機

私がこの研究を行おうと思った大きなきっかけは、ニュースのとある報道だった。それは、アメリカのミネソタ州で起こった事件の報道だった。「白人警察官が黒人男性を殺した。」大きな見出しと共に流れたショッキングな映像に開いた口が塞がらなかった。報道の内容は、職務執行のために警察官が黒人の首を押さえつけているというものだ。酷いもので、男性を取り逃がさないためとはいえ過剰な力で拘束されていることははたから見ても明らかだった。黒人男性は「助けて」とか「息ができない」といったことを何度も叫んでいた。それにもかかわらず警察官は聞く耳を持たずに8分間男性の首を締め続け、その後男性は亡くなってしまった。

私は本当に同じ人間がしていることなのかと信じられなかった。それと同時にある疑問が生じた。首を締めていた警察官の他にまだ周りに3人警察官が居たのに、誰一人として彼を止めようとする者が居なかったのはなぜなのか。私は黒人になら何をしてしても許されるという考えが、そこにあったのではないのかと考えた。黒人と白人で肌の色という外見が違うだけなのに、なぜ差別されなければならないのか。本研究において歴史的な視点からそれを明らかにしたいと思う。

改めて自分の人生を振り返ったとき、周りで黒人差別をされている、しているという人は見たことがなかった。そしてアメリカに行った経験もない。したがって、私の中で黒人差別はあまり馴染みの無い社会問題であった。けれども、中学2年生の頃、社会科の先生がとあることを授業の合間に言っていた。どこの国かは覚えていないが、料理を食べていた時に、その料理が苦かったらしく、「苦っ。」と日本語で言ったら大変なことになったということ話を話していた。勿論その先生は差別用語だということは知らなかった。その時は「メモらないでくださいね」と言っていたが、今思うとそれも黒人差別に関連していることだと気づいた。そして、アメリカでは人種差別が深刻化し、社会問題にまで発展しているという。

これらの理由を知るために、私はこの社会問題を探究したいと思ったのである。私にできることは何かと考えた時に、現在の問題の歴史を知り、そしてできるだけ多くの人に知ってもらうことが最善の策だと考えた。

## 第二章 先行文献の検討

まず自分の問いとしては「なぜ黒人差別はなくなるのか？」ということである。そこで自分はアメリカ、イギリス、アフリカ地域で起こっている黒人差別の事件について調べてみることにした。まず、アメリカで起こった最も印象的な事件は、米ミネソタ州ミネアポリスで2020年5月28日に起こった事件である。被害者の黒人男性であるジョージ・フロイドは、ニセ札を偽造した疑いで警察に逮捕されたが、その際に白人警官が道路に横たわるフロイドの喉を長時間膝で押さえ続けた。そして、その現場を一般市民がスマホで撮影し、それがSNSを通じてネットに拡散されると、それに影響を受けた多くの人々はアメリカ国内で事件に対する抗議デモを行った。

また、ラトガーズ大学、ミシガン大学、ワシントン大学セントルイス校の研究者による共同研究では、黒人男性は1,000人に1人の割合で警察官に殺害されているという。さらに、アメリカ自由人権協会(ACLU)の調査によると、マリファナ所持の疑いでアフリカ系市民が逮捕される確率は白人の3.7倍というデータを示している。そして、フランスでも上記と同様の事件が2016年に起こっている。BBCの2020年の記事によると「アダマ・トラオレさん(当時24歳)は4年前、パリ郊外で警官に逮捕された。警察車両の中で意識を失い、警察署で死亡した。」という。家族は死亡原因を

調査するように要請し、その結果、圧死の可能性があると指摘され、それが白人警察官による暴行死である可能性が示唆されている。

### 第三章 独自研究

私はこれらの問題が起こっている歴史を振り返ってみることにした。すると始まりは16世紀にポルトガルやスペイン人がアフリカ西岸で得た黒人を南北アメリカ大陸やカリブ地域などに奴隷として売りはらった黒人奴隷貿易から始まるという。そして、1776年には「アメリカ独立宣言」により基本的人権などが保障されたものの、この時点では黒人の人権は認められておらず、黒人奴隷も無くなっていなかった。そして1863年にはリンカンにより「奴隷解放宣言」が出され、アメリカ南部地域の奴隷の自由が認められる。そして、1964年にはキング牧師が現れて公民憲法が成立し、人種や肌の色を理由として、公共施設や教育において人種差別をしてはならないということが法律で規定される。そしてついに2009年にはバラク・オバマ大統領がアメリカ史上初のアフリカ系アメリカ人の大統領に就任するに至った。

なぜこのような差別撤廃の歴史を歩んできたのにもかかわらず、黒人差別は排除できないのだろうか。人間には自分と異なる人を見下して優位に立とうとしたり、理解できないものを信用しないことで自身を守るという本能がある。それは肌の色の違いを受け入れないことと同じで、違いを認めたくない人が多いからではないかと考えた。これは黒人差別以外にも、アジア人への差別であったり、そのほかの人種差別に関しても、問題の根幹は同じであると考えられる。一部の白人は自分の弱さや欠点が浮き彫りになったときに、そのフラストレーションや苛立ちを分かりやすく自分たちと違う見た目の黒人やアジア人に矛先を向けてしまうので、時として悲しい事件や問題が起きてしまう。そして、それは人間が人間である限り今後も残念ながらなくなるものではないと推測できる。しかし、アメリカではBLMなどの黒人差別反対運動などを通じて、世界各国に差別は許されないという風潮に大きな影響を与えることができるので、人々の意識そのものや事件の数を減らすことはできると期待したい。なので、そういった運動を通じ、我々も声をあげ続けることが大切であり、個人でもできる最善の策であると考えます。

黒人差別以外にも、留意すべき差別意識に関しては当然私たち日本人にもあてはまるものである。わが国でも韓国人や中国人に対してヘイトスピーチが問題になったことは記憶に新しい。決して他人事ではなく、自分ごととして我々もこの問題をとらえていかなければならない。